

## 第 121 回 日本内科学会 講演会

2024 年 4 月 12、13、14 日に東京で開催された、第 121 回 日本内科学会 講演会を web で視聴した。1.5~2 倍速で視聴したがすべて見るのに 13 時間ほどを費やした。

最近の各領域で生物学的製剤による治療の進歩が著しい（一方でその副作用である immune related adverse effect が増えている）。総合診療医には欠かせない知識となるだろう。

教育講演以外にシンポジウム、プレナリセッション、会長講演（北大渥美達也教授）、特別講演（北大宝金清博総長）、招請講演、CPC などがある。

その中で『内科医リカレント教育セミナー』の企画に札幌医大総合診療医学講座の三原弘准教授が関わっていることを知った。内科全般を見る医師に必要な知識を 100 項目程度取り上げ、動画で短時間に学習できるコンテンツを作成するという企画のようだ。今回の web では、「随伴する症状に乏しい発熱」（微熱が 3 週間続く 34 歳男性）、「高血圧には降圧剤を処方すればよいのか？」（41 歳女性の高血圧）、「CRP 陰性の発熱」（20 歳女性）、「急性腰痛症への対応—red flag sign の活用—」（腰が慢性的に痛む 63 歳男性）という 4 項目が紹介された。早く完成させてもらい、多くの医師が内科全般の学習に役立ててもらいたいことを期待したい。

事例の最終診断は「感染性心内膜炎」、「原発性アルドステロン症」、「SLE」、「がんの骨転移」と、総合診療医なら思いつく病気であったが、そこに至るまでの思考過程を重視した大変優れた内容であった。